

平成27年度普通会計決算認定特別委員会

平成28年10月25日（火）

〔委員会の概要 総括説明〕

須見委員長

ただいまから、普通会計決算認定特別委員会を開会いたします。（10時33分）

はじめに、普通会計決算認定特別委員会の運営についてであります。本日は会計管理者及び出納局副局長から決算の総括的な説明を聴取することとし、10月26日は公安委員会、農林水産部、保健福祉部及び商工労働観光部、27日は政策創造部、県土整備部、及び危機管理部、28日は教育委員会、県民環境部及び経営戦略部・監察局について、計3日間、各部局別に審査を行い、全部局の審査の後に採決を行いたいと思っております。このような審査方法でいかがでしょうか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

それでは、そのように議事を取り計らうことといたします。

それでは、議事に入ります。

これより、平成27年度徳島県一般会計歳入歳出決算並びに各特別会計歳入歳出決算の認定についての審査を行います。

まず、本件について、会計管理者及び出納局副局長から説明を受けることにいたします。

安井会計管理者

決算の説明に先立ち、一言御挨拶を申し上げます。

須見委員長、岸本副委員長をはじめ委員の皆様方におかれましては、本日から10月28日までの4日間、平成27年度徳島県一般会計歳入歳出決算並びに各特別会計歳入歳出決算につきまして、御審査を賜ることとなりました。決算の調製にあたりましては慎重を期してまいったところでございますので、十分御審査賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、私からは決算の概要について、お手元に参考資料としてお配りしております平成27年度一般会計特別会計歳入歳出決算の概要に従いまして、御説明申し上げます。

なお、金額につきましては、四捨五入して百万円単位で御説明させていただきたいと思っておりますので、御理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

まず、決算の概要の1ページを御覧ください。

1の予算現額の比較でございますが、一般会計につきましては、5,195億4,500万円と、前年度に比べ114億9,300万円、率にして2.2%の減となっております。

また、特別会計につきましては、用度事業会計など19の会計を合わせた予算現額は、2,862億1,800万円と、前年度に比べ67億9,300万円、率にして2.4%の増となっております。

次に、2の歳入決算額の比較でございますが、一般会計につきましては、4,884億

4,600万円となっており、前年度に比べ101億8,300万円、率にして2.0%の減となっております。

また、特別会計につきましては、2,732億600万円となっており、前年度に比べ43億600万円、率にして1.6%の増となっております。

次に、3の歳出決算額の比較でございますが、一般会計につきましては、4,751億800万円となっており、前年度に比べ34億4,800万円、率にして0.7%の減となっております。

特別会計につきましては、2,598億7,600万円となっており、前年度に比べ37億4,500万円、率にして1.5%の増となっております。

次に4の翌年度繰越額の比較でございますが、一般会計につきましては、258億6,100万円となっており、前年度に比べ82億2,900万円、率にして24.1%の減となっております。

特別会計につきましては、5億1,300万円となっており、前年度に比べ3,100万円、率にして5.7%の減となっております。

2ページを御覧ください。

5の平成27年度決算状況でございますが、一般会計につきましては、最下段のE欄に記載しております実質収支額は、68億1,900万円の黒字となっております。

特別会計の実質収支額につきましても、132億600万円の黒字でございます。

3ページを御覧ください。

一般会計の歳入決算額を款別に整理し、前年度と対比した表であります。主な歳入につきまして御説明いたします。

まず、第1款、県税の収入済額は、770億900万円であり、地方消費税、自動車取得税などの増により、前年度に比べ12億8,900万円、率にして1.7%の増となっております。

次に、第2款、地方消費税清算金の収入済額は、287億300万円であり、算定基礎となる全国の地方消費税の収入増により、前年度に比べ117億9,000万円、率にして69.7%の大幅な増となっております。

次に、第9款、国庫支出金の収入済額は、544億3,000万円であり、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金などに係る、国庫補助金の減により、前年度に比べ49億9,500万円、率にして8.4%の減となっております。

次に、第12款、繰入金の収入済額は、729億3,400万円であり、二十一世紀創造基金繰入金などに係る、基金繰入金の減により、前年度に比べ103億8,700万円、率にして12.5%の減となっております。

次に、第15款、県債の収入済額は、507億200万円であり、臨時財政対策債などの減により、前年度に比べ28億4,800万円、率にして5.3%の減となっております。

次に4ページを御覧ください。

一般会計の歳出決算額を款別に整理し、前年度と対比した表でございます。特に増減の著しい内容につきまして、御説明申し上げます。

まず、第6款、農林水産業費の支出済額は、288億9,800万円であり、森林整備加速化・林業飛躍事業費、広域漁港整備事業費などの減により、前年度に比べ44億7,300万円、

率にして13.4%の減となっております。

次に、第8款、土木費の支出済額は472億9,600万円であり、緊急地方道路整備事業費、県営住宅建設事業費などの減により、前年度に比べ65億3,900万円、率にして12.1%の減となっております。

次に、第10款、教育費につきましては、837億4,600万円であり、定年退職者の増加に伴う教職員人事費や高校施設整備事業費などの増加により、前年度に比べ18億2,100万円、率にして2.2%の増となっております。

次に、第11款、災害復旧費につきましては、35億9,600万円であり、平成26年度発生災害に伴う河川等施設災害復旧事業費、災害林道復旧事業費などの増加により、前年度に比べ17億5,700万円、率にして95.5%の大幅な増となっております。

次に、第12款、公債費につきましては、806億4,100万円であり、償還額の減により、前年度に比べ39億7,500万円、率にして4.7%の減となっております。

次に、第13款、諸支出金の支出済額は293億6,500万円であり、地方消費税交付金などの増により、前年度に比べ106億3,200万円、率にして56.8%の大幅な増となっております。

次に5ページを御覧ください。

このページと次の6ページは特別会計でございます。

用度事業会計をはじめ19の会計別に、5ページでは歳入決算額を、6ページでは歳出決算額を整理したものでございますが、詳細な説明は省略いたします。

以上、概略を御説明申し上げましたが、歳入歳出決算の詳細につきましては、お手元に御配付の決算説明書によりまして、この後、出納局副局長から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

仁木出納局副局長

引き続きまして、平成27年度一般会計歳入歳出決算並びに各特別会計歳入歳出決算の詳細につきまして御説明申し上げます。

お手元に決算書類といたしましては、歳入歳出決算書、歳入歳出決算附属書類、歳入歳出決算説明書の計3冊を提出させていただいておりますが、このうち、歳入歳出決算説明書によりまして、説明させていただきます。

決算説明書の1ページを御覧ください。

一般会計及び特別会計決算総括表でございますが、内容につきましては、先ほど、会計管理者から歳入歳出決算の概要で、御説明をさせていただいたとおりでございます。

2ページをお願いいたします。

最近5か年間の一般会計決算額比較表でございますが、平成27年度における予算現額の対前年度増減率は、前年度と比べて2.2%、歳入決算額は2.0%、歳出決算額は0.7%と、いずれも前年度と比べて減額となっております。

次に、7ページをお願いいたします。

一般会計歳入決算状況でございます。当初予算額に補正予算額と前年度繰越事業費繰越

額を加えた5行目の予算現額は、5,195億4,499万2,383円となっております。

調定額は、4,913億8,438万7,120円、収入済額は、4,884億4,590万8,431円、不納欠損額は、1億3,856万6,481円、収入未済額は、27億9,991万2,208円となっております。

前年度と比較して、調定額は2.1%、収入済額は2.0%、不納欠損額は15.3%、収入未済額は5.4%と、いずれも減額となっております。

続きまして、8ページをお願いいたします。

一般会計歳入決算額表でございますが、その主な内容につきまして御説明を申し上げます。

まず、第1款の県税につきましては、調定額784億4,436万531円に対し、収入済額770億873万5,320円、不納欠損額1億2,528万8,887円、収入未済額13億1,033万6,324円となっております。決算総額に占める県税の割合につきましては、一番右端の欄に記載のとおり15.7%となっております。

第5款の地方交付税につきましては、収入済額は1,459億8,612万7,000円となっております。決算総額に占める構成比は、29.9%でございます。

次に、第8款の使用料及び手数料につきましては、収入済額は53億1,152万6,653円となっております。このうち、使用料収入が72.8%を占めております。

第9款の国庫支出金につきましては、収入済額は544億2,972万53円となっております。予算現額と収入済額との比較で、126億5,111万8,685円の差額となっておりますが、これは、ほとんど歳出予算の翌年度繰越事業費の財源に充てられるものでございます。

第12款の繰入金につきましては、収入済額は729億3,359万7,452円となっており、このうち、基金繰入金は221億6,030万7,467円でございます。

第13款の繰越金につきましては、収入済額は200億7,280万4,125円となっておりますが、これは、平成26年度の歳計剰余金が、平成27年度の繰越金収入となっているものでございます。

第14款の諸収入につきましては、収入済額は156億4,594万816円となっておりますが、これは貸付金元利収入などによるものでございます。

第15款の県債につきましては、収入済額は507億200万円となっております。

予算現額と収入済額との差額が、88億7,900万円生じておりますが、この額は、国庫支出金と同様、ほとんど翌年度繰越事業費の財源に充てられるものでございます。

次の9ページから11ページにかけては、歳入決算額を分析したグラフを記載をいたしておりますが、まず、9ページにつきましては性質別に分析したものでございます。

このグラフの一番外側の数字は、地方交付税、県税などの款別の構成比率を表しております。財源内訳といたしましては、用途が特定されていない一般財源については、款別の構成比の内側に斜線の模様で表示してありますが、地方交付税から県税などを合わせて歳入全体の54.5%を占めております。これに対し、用途が特定されております県債、国庫支出金などの特定財源は45.5%となっております。

また、県が自主的に調達できる自主財源については、内側のグラフに網掛けで表示して

ありますが、県税、諸収入などで45.5%となっております。これに対し、その調達を県以外の国などに依存する地方交付税、国庫支出金などの依存財源は54.5%となっております。

次に、10ページをお願いいたします。

最近5か年間の一般会計歳入決算額比較表でございます。この表は、財源別構成比のうち、自主財源と依存財源の推移を過去5か年間の比較表として表したものでございます。左側のグラフは構成比率を、右側のグラフは決算額を億円単位で表示をいたしております。

まず、左側の構成比率のグラフを御覧ください。右の端から順に、自主財源につきましては、県税は白で表示して、その他は網掛けで表示してございます。

一番下の平成27年度における自主財源の構成比については、右端から、県税が15.7%、繰入金などのその他が29.8%の計45.5%となっており、自主財源の割合が前年度と比べ1.4ポイント高くなっております。

また、グラフの真ん中の国庫支出金は11.1%で、前年度に比べ0.8ポイント低くなっており、その左側の地方交付税は29.9%で、0.1ポイント低くなっております。さらに、左端の県債などの、その他が13.5%と、前年度に比べ0.5ポイント低くなっております。

続きまして、11ページをお願いいたします。

この表は、財源別構成比のうち、一般財源と特定財源の推移を表したものでございます。県税、地方交付税などの一般財源は、斜線で表示し、特定財源は白で表示しております。

左側の一番下のグラフを御覧ください。平成27年度におけます、一般財源の構成比は、歳入全体の54.5%と、前年度の51.7%に比べ、2.8ポイント高くなっております。

続きまして、12ページをお願いいたします。

一般会計歳入予算額表でございます。当初予算、補正予算などの予算措置の状況を記載してございます。

13ページをお願いいたします。

このページから19ページにかけては県税決算状況といたしまして、税目別の決算額、各局・庁舎別の県税と県税に附帯する県税外収入の徴収状況、最近5か年間の県税の徴収状況、予算に対する過不足額などを記載いたしております。

続きまして、20ページをお願いいたします。

20ページから45ページにかけては、税外収入過不足額及び収入未済額の説明といたしまして、科目別の予算に対する収入過不足額、収入未済額とそれぞれの主な理由を記載をいたしております。

46ページをお願いいたします。

寄附金及び雑入の収納内訳説明でございます。このページから55ページにかけては、科目ごとにその額と内容を記載をいたしております。

次に、56ページを御覧いただいたらと思います。

このページから58ページには、一般会計不納欠損処分の説明を科目別に記載をいたしております。一般会計では、県税の1億2,528万8,887円のほか分担金及び負担金、使用料及び手数料、並びに諸収入を含め、合計で1億3,856万6,481円を不納欠損処分いたしております。

続きまして、61ページをお願いいたします。

一般会計歳出決算状況でございます。上から5行目の予算現額は、歳入予算現額と同額の5,195億4,499万2,383円となっております。

これに対し、支出済額は4,751億827万7,214円、翌年度繰越額は、258億6,100万3,911円、支出済額と翌年度繰越額との合計額は、5,009億6,928万1,125円となり、この結果、不用額は185億7,571万1,258円となっております。

前年度と比較して、支出済額は0.7%、翌年度繰越額は24.1%と、いずれも減額となっております。

続きまして、62ページをお願いいたします。

一般会計歳出決算額表でございます。この表は、前のページで御説明をいたしました一般会計歳出決算状況を、歳出の款別に表したものでございますが、各欄の上段の括弧書きの数字につきましては、前年度繰越事業費繰越額の決算状況を内書きで表したものでございます。詳細の説明は省略させていただきます。

63ページをお願いいたします。

一般会計歳出決算分析グラフでございます。これは、歳出決算総額を人件費等の性質別と、款別の目的別に分析したグラフを記載したものでございます。

左側の性質別グラフは、歳出決算総額を人件費等の性質別に分析しており、これを義務的経費と任意的経費に分類いたしますと、人件費、公債費などの義務的経費は、歳出全体の42.2%を占めております。これに対しまして、負担金補助等及び工事請負費などの任意的経費は57.8%となっております。

次に、右側のグラフは、目的別に教育費、民生費など歳出の款別の構成比率を表したものでございます。

続きまして、64ページをお願いいたします。

最近5か年間の一般会計歳出決算額比較表でございます。一番下の平成27年度の左側のグラフに、義務的経費及び任意的経費について、それぞれ性質別に構成比率を表しております。義務的経費については、人件費、扶助費、公債費を合わせて42.2%となっており、前年度の42.7%に比べ、0.5ポイント低くなっております。

65ページを御覧ください。

一般会計歳出予算額表でございます。予算措置の状況を、各款別に記載いたしております。

66ページをお願いいたします。

このページから69ページにかけては、一般会計歳出決算節別集計表でございます。各款別の節別執行状況を記載いたしております。

70ページをお願いいたします。

一般会計繰越額科目別一覧表でございます。このページから75ページにかけては、継続費逓次繰越、繰越明許費及び事故繰越しのそれぞれの繰越区分に応じて、各支出科目別に翌年度繰越額を記載いたしております。

70ページの継続費逓次繰越については、翌年度繰越額計の欄に記載のとおり、土木費の

4億円となっており、71ページから74ページの繰越明許費につきましては、74ページの翌年度繰越額計の欄に記載のとおり、総務費から災害復旧費までの合計で253億726万6,911円となっております。

また、75ページの事故繰越しにつきましては、1億5,373万7,000円となっております。76ページをお願いいたします。

前年度繰越事業費繰越額決算状況でございます。このページから81ページまで、各繰越区分ごとに前年度繰越額の決算状況を記載いたしております。

続きまして、82ページをお願いいたします。

一般会計歳出不用額説明でございます。このページから112ページにかけては、支出科目別に不用額、及び不用となった理由を記載いたしております。

116ページをお願いいたします。

特別会計歳入歳出決算額比較表でございます。このページと次の117ページに、19の特別会計の決算額を各会計別に記載をいたしております。

歳入決算額の状況につきましては、116ページの一番下の合計欄に記載のとおり、調定額2,748億3,276万8,583円、収入済額2,732億611万3,604円、収入未済額16億2,411万7,315円となっております。

次に、歳出決算額の状況につきましては、117ページの左から3列目、最下段に記載のとおり、支出済額2,598億7,569万1,540円、翌年度繰越額5億1,288万7,270円、不用額258億2,951万6,780円となっております。この結果、右端に記載のとおり、歳入歳出差引額は133億3,042万2,064円となっております。

続きまして、118ページをお願いいたします。

特別会計歳入歳出予算額表につきましては、記載のとおりでございますので、説明は省略させていただきます。

119ページをお願いいたします。

特別会計収入未済額の説明でございます。このページから126ページにかけては、各会計別、科目別に、収入未済額の内容と理由を記載しておりますが、説明は省略させていただきます。

続きまして、127ページをお願いいたします。

特別会計不納欠損処分の説明でございます。母子父子寡婦福祉資金貸付金会計で、253万7,664円の不納欠損処分を行っております。

次に、128ページをお願いいたします。

収入証紙等決算総括表でございます。このページから130ページにかけては、収入証紙の売りさばき状況を、種類別、月別に記載いたしております。

131ページをお願いいたします。

収入証紙による収入決算額でございます。このページから135ページにかけては、収入証紙による収入決算額の状況を記載いたしております。

136ページをお願いいたします。

特別会計繰越額科目別一覧表でございます。繰越明許費における公用地公共用地取得事

業会計など3会計につきまして、翌年度繰越額の合計は、5億88万7,270円となっております。

また、137ページの事故繰越しにつきましては、流域下水道事業会計で、1,200万円となっております。

続きまして、138ページをお願いいたします。

前年度繰越事業費繰越額決算状況でございます。繰越明許費における中小企業・雇用対策事業会計など4会計につきまして、前年度繰越額の決算状況を記載いたしております。

139ページをお願いいたします。

特別会計歳出不用額説明でございます。このページから145ページにかけては、各会計の支出科目ごとに、不用額と不用となった理由を記載いたしておりますが、説明は省略させていただきます。

続きまして、149ページをお願いいたします。

基金につきましては、別冊の歳入歳出決算附属書類に、各基金ごとの決算年度中増減高、決算年度末現在高を記載いたしておりますが、このページから159ページにかけては、平成27年度中の各基金の運用益、及び出納閉鎖期日であります5月末に平成27年度歳入としての、取崩しや歳出としての積立が集中して行われますことから、平成28年3月末現在の基金の状況に加えまして、出納整理期間中における基金の増減高、並びに平成28年5月末現在の基金の状況について記載いたしております。

以上で、平成27年度一般会計歳入歳出決算並びに各特別会計歳入歳出決算の説明を終わらせていただきます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

須見委員長

以上で、決算概要の説明聴取を終わります。

これより質疑に入るわけではありますが、質疑は、ただいま説明のありました総括的事項に関するものにとどめ、個別の事項等については、各部局別の審査において行うことにいたしたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、本日の委員会を閉会いたします。（11時08分）